

# クロアチア情勢

## 主な出来事

2017年6月

### 内政

- 1日、ザグレブ市内において、教育改革及びバリシッチ教育・科学大臣の辞任を求めるデモ行進が行われ、参加者は約2万人とも。
- 2日、ブルドリャクHNS党首がプレンコビッチ首相から議会での協力と引替えに閣僚ポストの提案を受けているとのツイートを発信。
- 4日、統一地方選挙決選投票が行われ、第1回投票（5月21日）で当選が決まらなかったザグレブやスプリット等の市長や県知事が決定。
- 6日、人民党(HNS)の執行委員会が開催され、ブルドリャクHNS党首はクロアチア民主同盟(HDZ)との連立は行わない、また、自身は政界から身を引く旨発言。
- 7日、ブルドリャクHNS党首が正式に辞任。HNS中央委員会が開催され、前日の執行委員会の決定を覆し、HDZとの連立交渉を行う方針を決定。
- 9日、HDZとHNSが連立。空席となっていたポストを含む7つの閣僚ポストに対する候補者を議会に提示し、賛成78票で新閣僚が承認。
- 10日、ザグレブにて第16回プライドパレードが開催され、参加者は約1万人に上った。シュトロマルHNS党首代行、ムラク＝タリタシュ元建設・都市計画相、ベルナルディッチSDP党首及び一部欧米の外交団等も参加。
- 12日、シュティール副首相兼外務・欧州問題省大臣が辞任を表明。
- 19日、ペイチノビッチ＝ブリッチ副首相兼外務・欧州問題省大臣が就任。
- 25日、グラバル＝キタロビッチ大統領主催の建国記念日レセプションが開催。
- 26日、バンディッチ・ザグレブ市長は、市議会内の多数派工作として、ザグレブ市内の「マーシャル・チトー広場」を「クロアチア共和国広場」と改称する旨示唆。これに対して、野党等が反発。
- 27日、クロアチア警察はSIS(シェンゲン情報システム)を導入し、シェンゲン協定内における20万人の行方不明者や車等へのアクセスが可能に。
- 30日、クロアチア議会は、ペトロフMOST代表(前議会議長)を賛成91票、棄権1票にて副議長に承認。また、同議会において、社会民主党(SDP)所属のオパチッチ副議長が解任され、同党所属のハイダシュ＝ドンチッチ議員が、その後任として副議長に就任。

## 外交

- 1日、タチ・コソボ大統領が当国を訪問し、グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相と会談。経済面の協力を強化していく旨合意。
- 1－2日、ダリッチ副首相兼経済・中小企業大臣がロシア訪問。サンクトペテルブルクで開催された国際経済フォーラムに出席。
- 2日、トゥルト内務省次官補は、モンテネグロで開催されたサイバーセキュリティ会議に出席。
- 3日、スロベニアで開催された、ブルドー・ブリュニ・プロセス首脳会合及び外相会合に、グラバル＝キタロビッチ大統領及びシュティール副首相兼外務・欧州問題相が出席。
- 12日、グリーンデアヌ・ルーマニア首相が当地を公式訪問し、グラバル＝キタロビッチ大統領、プレンコビッチ首相及びヤンドロコビッチ議会議長と会談。EU・NATOにおける二国間協力及び経済協力の強化をしていく旨合意。
- 13日、ドゥダ・ポーランド大統領が当地を公式訪問し、グラバル＝キタロビッチ大統領、プレンコビッチ首相及びヤンドロコビッチ議会議長と会談。エネルギー、安全保障、3海域イニシアティブ等について意見を交換。
- 13日、フロイスマン・ウクライナ首相が当地を公式訪問し、グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相と会談。プレンコビッチ首相はロシアのウクライナ介入を非難。
- 14日、欧州委員会は、クロアチアが難民の指紋登録システム導入に関するEU規則を遵守していないとし、クロアチアに対して理由付き意見書（Reasoned Opinion）を送付。
- 20日、キスカ・スロバキア大統領が当国を公式訪問し、グラバル＝キタロビッチ大統領、プレンコビッチ首相及びヤンドロコビッチ議会議長と会談。エネルギー、輸送等の協力を強化していく旨合意。
- 23日、プレンコビッチ首相はブリュッセルのEU理事会に参加。
- 23日、グラバル＝キタロビッチ大統領はブチッチ・セルビア大統領の就任式に参加し、両国の関係改善に言及。
- 23日、プレンコビッチ首相及びグラバル＝キタロビッチ大統領は、スロベニアとの国境問題に関し、本件に係る仲裁裁判所のプロセスから離脱しており、裁定は何らクロアチアに影響を与えない、しかし、スロベニアとの対話は開かれている旨発言。
- 26日、レンデルス・ベルギー副首相兼外相が当国を訪問し、プレンコビッチ首相と会談。ブレクジット・難民問題・南東欧や東方パートナーシップの状況について意見を交換。
- 26日、ラベイ・イラン労働・社会問題相が当国を訪問し、ダリッチ経済・中小企業相及びパビッチ労働・年金システム相と会談し、両国の経済関係について相互理解を深めた。
- 29日、クロアチア・スロベニア国境画定問題に関し、常設仲裁裁判所が裁定結果を発表。これに対し、クロアチア政府は、この判定結果に何ら拘束されず、また、実施する意思もなく、本件問題解決のため、スロベニアとの二国間協議を進める用意がある旨声明を发出。
- 30日、ドブロブニクにおいて南東欧協力プロセス（SEECp）首脳会合及び外相会合が開催され、グラバル＝キタロビッチ大統領及びペイチノビッチ＝ブリッチ外務・欧州問題相がそれぞれ出席。なお、そのマージンにおいて、グラバル＝キタロビッチ大統領はパホル・スロベニア大統領及びブ

チッチ・セルビア大統領と、ペイチノビッチ＝ブリッチ外務・欧州問題相はツルナダク・ボスニア・ヘルツェゴビナ外相、ホジャイ・コソボ外相及びディミトロフ・マケドニア外相と、それぞれ会談を実施。

●30日、クロアチア議会は、クロアチア軍をポーランドとリトアニアにおけるNATOミッションに派遣することを承認。

## 経済

●1日、プレンコビッチ首相は、欧州委員会が、ペリエシャツ橋梁建設を含む南ダルマチア地方連結道路建設プロジェクトについて、357百万ユーロのEU基金を拠出することを決定した旨発表。同額は同プロジェクトに必要とされるコストの85%に相当。

●5日、世界銀行は、「世界経済見通し」を公表。その中で、クロアチア経済について、2017年は2.9%成長と前回(2.5%)より上方修正し、2018年、2019年については、各々、2.5%、2.6%と予測。

●7日、ズベルバンクは、ザグレブの商業銀行に対し、アグロコル社及びラムリャック・同社管財責任者による、新規の資金調達締結の差止めを求めて提訴。

●15日、国連の専門機関の一つである世界知的所有権機関は、128カ国を対象とした Global Innovation Index 2017 を公表。その中で、クロアチアは41位となり、前年より6位順位をアップ。

●16日、欧州委員会は、クロアチアに対するEDP(過剰財政赤字手続)終了を公式に発表。これは、クロアチアの2016年の財政赤字が、対GDP比で0.8%と閾値3%を大きく下回ったことを評価したもの。

●20日、クロアチア政府とハンガリー政府は、ブタペストで、両国間のガスパイプラインの双方向利用に関する覚書に署名。

●26日、リエカ港湾当局は、リエカ港の改修・改善に係るプロジェクトについて、欧州委員会より34百万ユーロのEU基金の拠出が承認された旨公表。このEU基金の対象プロジェクトは、リエカ港のインフラ改修事業とリエカ近郊の港湾インフラの近代化事業であり、プロジェクト総額の85%に相当。

●27日、クロアチア経済会議所はイランの経済代表団を迎え、二国間経済フォーラムを開催。

## 主要経済指標

(2017年月次データ、政府統計局発表)

| 輸出総額(4月)                        | 輸入総額(4月)                        | 貿易赤字(4月)                       | 工業生産高(5月)<br>対前年同月比 | インフレ率(5月)<br>対前年同月比 | 失業率(登録制)(5月)        |
|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 324 億クーナ<br>43 億ユーロ<br>(+16.6%) | 520 億クーナ<br>69 億ユーロ<br>(+10.7%) | 195 億クーナ<br>26 億ユーロ<br>(+2.1%) | +3.3%<br>(4月:+0.6%) | +1.1%<br>(4月:+1.4%) | 11.7%<br>(4月:13.2%) |

※輸出総額、輸入総額、貿易赤字の括弧内の数字は、対前年同月比。

本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。